

タイミング的にもいい時でした。ちょうどその頃、弟夫婦にも長女、つまり私にとって初の姪っ子が二週間ちがいで生まれまして。いとこ同士で、すごく仲がいいんです。教会にも、幸と同じ年の子がいて、近所でも幸がいてくれるおかげで親しい関係が生まれています。

広士 女の子を理解するっていう点でも、幸を育てるのは大きなことでした。男の子との違いに新鮮な驚きを感じる事が多いですね。女性である家内を理解する上でも役にたっています。

―性別は選べるんですか？

広士 「小さいのちを守る会」には、男女どちらがほしいという希望は出せません。

考えていますが、励ましとして、養子もかわいい我が子になることをお話します。

この前、それを知りたくてわざわざ訪ねて来た人もいます。その方は不妊治療をしてやっと一人与えられたけれども、二人目が与えられないので、実子を持つていながら養子を育てているケースを知りたいということで、来てくれました。

―養子を迎えたい親たちはよくても、おじいちゃんおばあちゃんたちは、どうだったのでしょうか？

広士 私たちが願いを持っていることは、婚約の段階から話していましたが、知ってはいたんです。双方の親はクリスチャンでもありませんので、趣旨としては分かっています。

迎えに行く前に電話で私の母にいいよ養子をいただくと話したら、さすがに驚きましたが、反対は何もなかったですね。双方の両親も上の子たちも、一目で娘が大好きになって、心から愛してくれています。

初穂 辻岡先生のおすすめで、子



広士さんのご両親

初穂さんのご両親

初穂 男の子が三人いたので、よほど女の子が欲しかったのねと言われることもあるのですが、産む場合も男の子か女の子かは神さまの決めることで、どちらでも与えられることが感謝なのです。むしろ男の子を育てる経験を積ませていただいたからこそ、もう一人男の子を育ててもいいな、とは思っていました。

広士 男の子を育てるというイメージがもうあるし、まあ自信もあるわけですよ。女の子は、全くの未体験ゾーンでした。

どもの受け入れ式というのを教会でしていただいたんです。その時には私たちの家族も両親も壇上にあがって、本当に家族として結ばれたことを神と会衆の前で確認したんです。

広士 あれは感動しましたね。戸籍に入籍したことも大切ですが、神さまの前で私たちは家族だと確認できたのは結婚式みたいで、みんな本当に感動しました。

初穂 感動したといえば、幸を迎えに行くことが急に決まり、赤ちゃんの支度が間に合わないとか心配したのだけれど、同じ幼稚園のお母さん達が喜んで協力してくれて、必要なものがすぐにそろったんです。近所の人たちも口々に『よかったね』とか『自分も実は同じような願いはあった』などと言ってくれる人もいて、うれしかったですですね。

広士 そういえば、私たちは娘を迎えたことで嫌な思いをしたことは何もないですね。普通に子どもが与えられたという感じです。兄たちにとっても、けんかしたりかわいがったりする普通の兄弟ですね。

初穂 時も状況も全て整えられて

初穂 でも今は女の子が与えられて本当に良かったと思っています。上の子たちにとっても、私たちにとても、女の子というより、この子が与えられて本当に感謝しています。家族みんなが豊かにされました。

広士 守る会から電話が来て、初穂が、『はい、はい』と応えているのをそばで見えていましたが、その受け答えの様子から、『これは養子の話が来たな』と分かりました。来た話は受けるつもりでしたから。最初からうれしかったですね。幸せをいただいたっていう気持ち。それで、名前が幸となりました。

初穂 漢字より、音が先に決まったんです。

広士 聞かされたのは、『五月二十日生まれの子が三つ子の女の子がいますが、いただく気持ちが変わらないならば、出生届を出さねばならないので、名前をすぐ付けてほしい』ということでした。

初穂 すぐに二人で赤ちゃんが与えられた感謝のお祈りをして、名前を考えました。幸という名は、ひびきがかわいくて、聖書の『あなたこそ、私の主。私の幸いは、

いたし、どの子の場合もそうですけど、育てる中で、この子がいるからこういう恵みが与えられたという事の連続で、やっぱり私たちの計画ではなく、神さまの計画だったんだなと思われています。

―お忙しいところ、本当にありがとうございました。

*インタビューを行ったのは、土曜日の夕食後に牧師館の食堂。お父さんお母さんがゆっくり話せるようにと、一番上のお兄ちゃんが気を利かせて幸ちゃんを二階に連れ出してくれたが、幸ちゃん は、しばらくすると食堂に戻って来て、おもちゃを持ち出しては遊び始めた。両親はじめインタビュアーまで遊びに巻き込むうとするのには困った。

あなたのほかにはありません。』詩篇16:2」ということばを思い浮かべてつけました。

広士 名付けからできたっていうのは、うれしかったですね。うちの男の子たちは、みな漢字一文字の名前ですが、この子の場合も、同じく一文字にしました。

―養子を育てている方々のサポートグループっていうのはありますか？

広士 特にサポートグループというのはないですが、身近に養子を育てている家族がたくさんおられて、精神的な支えにはなっています。ある方は、小さいのちを守る会から四人も迎えています。養子縁組の法律的な手続きについては、辻岡先生が親切に手ほどきをしてくださいました。

―國分さんは、養子をいただくように人に勧めることもありますか？

広士 お子さんがいらっしゃらない方々に、こういう可能性がりますよと紹介することはあります。そういう方々は当然、すでに

話をしながら生まれた時からのアルバムを眺め、二才の誕生日にとったビデオを久しぶりに見て、お父さんお母さんは、幸ちゃんをいただいた喜びを味わい直していたようである。

*國分広士牧師(48)／初穂夫人は、お二人とも川崎市出身です。



國分さんの現在のご家族（向かって右から）

広士さん、幸ちゃん、力君(高一)、仰君(小五) 巖君(中一)、初穂さん